

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901043		
法人名	社会福祉法人 旭川健翔会		
事業所名	グループホームあさがお		
所在地	旭川市豊岡4条6丁目4番27号		
自己評価作成日	平成25年10月1日	評価結果市町村受理日	平成25年11月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0172901043-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年10月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、平成14年に開設し、1階には通所介護、居宅介護支援事業所、訪問介護事業所を併設しております。当事業所が特に力を入れている点は、ご利用者の今の状態に対しての課題や、必要なケアを把握し、ご利用者が心身ともに健康に過ごして頂けるよう、ご利用者本位のケアを行う事です。特に、余暇時間にご利用者の希望に応じて、手芸、書道、折り紙、民謡、カラオケ教室等と多くの教室に講師の先生を招き、楽しんで頂いています。又、お友達との交流会や、ご家族との食事会に出かける際は送迎を行ない、交流が継続出来るよう支援しています。外部との交流は、施設を地域住民に開放し、毎月多くの方が集い、手芸等作品作りを楽しんでいます。毎年1回、作品展と販売を行います。大勢の地域の方が来所される中へ、ご利用者も参加し、いつもと違う雰囲気を楽しんでいます。その他に、野外食や自衛消防訓練には、地域住民の方やご家族にも参加して頂いており、夏場には、ご利用者が職員と共に地域のラジオ体操に参加しています。又、当事業所の地域にある2つの町内会に加入させて頂き、新年会には、施設長が積極的に参加している等、地域との連携も良好です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

このグループホームは、前施設長の「地域との交流を大切にする」「美味しい手作りの美しい食事を提供する」「様々なクラブ活動を提供し、利用者が選択できる仕組みを作る」との想いが継続されて16年となっている。地域とは事業所を開放する事で交流が続いており、食事はシェフのような盛り付けと色彩、味付けも良く利用者は誰もが完食するほど、楽しみな時間となっている。デイサービスを中心に数多くのクラブ活動があり、利用者は自分が興味のあるクラブを選び参加している。出かけていることを誇りにし、参加している事が自信につながっている。家族には月1回の通信が発行され、色彩豊かな自分の家族の写真や情報が届くのを待ち望んでいる。職員の定着率も高く、馴染みの関係が続き利用者の精神的ダメージにはつながっていない。職員は、利用者といつも寄り添い傍にいて一緒に話を聞き、また、職員同士が支え合い、上下関係なく何でも言い合える関係で、グループホームのサービスの質向上に意欲的に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(本館アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(本館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念を作成して職員間で共有し、その理念に基づき、事業計画を作成し実践している。	開設当初から重点に置いている、地域に関わる大切さや利用者本意を十分に考慮された理念となっている。事業者内に掲示し、職員は会議やミーティングにおいて常に確認している。人生の先輩として尊敬し、身体状況に合わせた利用者らしい生活の実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設を地域に開放し、ご利用者も地域の一員としてラジオ体操や吹奏楽などに参加し交流している。	事業所の地域開放により現在も信頼関係が築かれ、ホーム主催の行事には地域の方も多く参加し、利用者と一緒に楽しんでいる。以前は朝市も開催していたが、都合により中止となり、新しく文化祭の開催で地域との交流の機会も続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、認知症についての理解が得られるよう、地域包括支援センターの保健師より認知症についての勉強会を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況の説明や、毎月の取り組みを報告しており、意見があった場合は、検討しサービス向上に努めている。	運営推進会議は利用者・家族代表・包括職員・民生委員・知見者を構成員とし2か月に1度定期開催している。会議においては活動や利用状況の報告、認知症についての勉強会等が行われ、活発に意見交換を行い、サービスの向上や事業所の運営に活かしている。	会議開催の活動内容が家族代表以外の家族に発信できていない事から、会議の内容が共有できる取り組みが望まれる。新しい情報の共有、会議への自由参加や構成メンバーの拡大に役立てられる事を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点や理解に困った時は、担当者に電話で聞いたり、出向いたりして、教えて頂き対応している。	行政の窓口には直接訪問し、問い合わせや相談、手続きで協力関係を築いている。運営推進会議での情報提供や勉強会の講師の依頼もしている。地域包括支援センター主催の研修や勉強会に積極的に出席し、他機関との交流や職員のステップアップに努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成し、全職員が施設内勉強会を行い、共有することで、玄関の施錠等行わず、見守りを重視している。	身体の拘束は行わないと契約書等に明記し、現在も身体拘束は全く行われていない。身体拘束防止について毎年内部研修が行われ、外部研修にも出席している。その後伝達をミーティングや会議で確認し、正しい理解のもとでケアに取り組んでいる。言葉の暴力や拘束もなく、特に自立支援をモットーに優しく見守るケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員でマニュアルに沿って、勉強会を行って学んでいる。又、入浴等に身体の観察を十分に行っている。		

グループホーム あさがお

自己評価	外部評価	項目	自己評価(本館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	包括支援センター等で開催する研修会に参加し、勉強した事等を施設内勉強会で全職員に伝え、認識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧な説明を行い、理解をしていただき、納得してもらっている。 又、ご家族のお話や状況を十分にお聞きし、不安を解消して頂けるよう関わっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者さんや、ご家族が意見や希望があれば、常にお聞き出来る姿勢を持っています。意見や希望があった時には運営に反映していきたい。	職員は日頃から家族との交流を図り、家族が気軽に意見・要望等を伝えられるような雰囲気づくりに努めている。問い合わせについて管理者が留守の時も、携帯で連絡し、直ちに検討する事で希望に添えるようにしている。野外食の時には家族同志の交流もあり、談笑の場面が見られる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例ミーティングを行なっていて、勉強会を行ったり、職員の提案等を出してもらい、皆で検討し、良い事は実行している。	毎月開催される会議では、事業所合同会議、その後各部署に分かれて行っている。担当職員からまとめた意見が提示され、それについて全員で検討している。意見や提案が反映され、職員の想いを大切にしている。施設長の気付きで、職員のメンタルケアについても対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務姿勢や実績を重視し、昇給や手当等に反映させている。 又、向上心を持って働いてもらえるよう、環境や条件に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の介護力を把握し、施設内の勉強会はもとより、外部の研修にも参加させており、各協議会の研修会の情報も提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の勉強会や認知症の研修に参加時に他の施設の方との交流をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(本館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接での生活状況を把握するよう努めると共に、個々に困っている事がないか、何かしてほしい事がないかを聞き、受け止めるよう努力すると共に、安心して過ごして頂けるよう配慮することに重視した関わりを持っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困っていることや、不安に思っている状況をよく聞き事業所として、どのような支援が必要かを話し合い、ご家族に安心して利用して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の思い、現在の状態を確認し、支援内容の提案等を何度も相談しながら、必要なサービス内容につなげている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	嬉しい事、楽しい事を職員と利用者さんが、一緒に喜び、悲しい時も一緒に支え合いながら暮らすことにより、信頼関係を深めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者さんの日々の暮らしの中の出来事や気づきを報告し、一緒に喜び合っって本人と一緒に支えるために家族と同じ思いで関わっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用前の馴染みの深い方に遊びに来て頂けるよう配慮したり、出向いて行けるよう送迎し、関わりを継続できるよう配慮している。	利用開始前の生活環境を大切に、家族と協力しながら主治医の受診や墓参り、馴染みの理美容、友人との交流の為の送迎、得意な趣味の継続等、以前の関係や習慣が途切れない支援をしている。外出・外泊や一時帰省時の家族への関わりを大切に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立した生活にならないよう、一日の生活時間の中で、居間での共有の場と、居室での自分の時間を作り、その方に合った時間作りを行っている。又、毎日のお茶の時間には、職員も一緒に入り、利用者同士の関係が円滑に出来るよう関わっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(本館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後の状況をお聞きしたり、何か相談等がありましたら連絡頂けるような関係を大切にしている。又、他の事業所に移られた方の所に、職員と一緒に遊びに行ったり来たりと交流を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望や意向をしっかり受け止め、本人らしい暮らしをご家族を交え検討し、個別に支援している。	独自のアセスメントシートの活用で、入居時や入居後に利用者の生活の情報、心身の状況を収集し、その後半年毎に見直しをしている。意思表示出来る本人・家族の意見を聞く事、日々の暮らしの中から意向の把握に努め、職員も意欲的に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に現在迄の生活歴を本人とご家族よりお聞きする事と、毎日の会話の中から引き出すよう働きかけを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のミーティングや業務日誌の記録等で一日の過ごし方が把握出来ている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族からの希望又は、介護面での変化等をミーティング時に話し合い、お互いの意見等を出し合い、反映された計画を作成している。又、期間終了前に見直しすると共に、状態が変化した時には、終了する前であっても話し合い、見直しを行っている。	モニタリングの時期に職員は状況をまとめ、会議の中で報告する事により全員で検討している。担当者会議には家族の参加を呼びかけ、共有する事で直接話し合っている。遠方の家族には事前に聞き取り、会議で代弁している。また、職員は利用者のエピソードを中心に様子を観察し、細かく記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護経過等の記録に日勤帯、夜勤帯等色分けし見やすい記入を行っている。勤務に入る前には、必ず確認を行ってから業務につくよう義務付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の希望とご家族の希望に応じると共に、常に状況の変化を柔軟に変更し、サービスの提供することに努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人が望まれる、近郊のデパートやスーパー等にお連れして楽しんで頂いている。又、利用者さんの意志によりお買い物され、楽しみや、満足感を持って頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望するかかりつけ医としている。又、受診や通院はご家族の希望に応じて支援している。	家族との関係を大切にする事で、基本的に家族が受診の対応としているが、相談して職員が受診同行する事もある。利用前の主治医を継続し、家族が直接聞く事で現状を理解出来るよう配慮している。希望により訪問診療もあり、適切な医療が受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(本館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日勤帯と夜勤帯での勤務の中で気づきや変化を、すぐ看護師に報告する事を徹底している。その後、看護師の指示を受け、適切な看護や受診等に結びつけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病状が安定した場合等、早く安心して暮らせるよう、施設で出来る状況を病院側に伝え、ご本人やご家族の希望があれば相談に努め、速やかな退院支援に結びつけている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体状況の変化を十分に把握し、本人の希望とご家族等の意向も伺い、主治医に伝え、主治医とご家族との確認をし、身体状況の変化のたびに繰り返し話をすることで、ご家族の気持ちの変化や本人の思いに目を向け支援につなげている。	重度化や終末期に向けた指針については詳しく記載され、家族と同意が得られている。ターミナルケアについては、利用者の意向をふまえて家族や医療関係者と十分に話し合い、思いに応えられるように取り組んでいる。継続的に意向の再検討にも努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生マニュアルの勉強会及び応急手当の実技勉強会を行い、お互いに実技を行い合い訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回利用者と一緒に避難誘導訓練と消火訓練を行っている。地域の協力体制については、運営推進会議で協力をお願いし、地域での協力体制が出来ている。 又、地域の方にも参加して頂いている。 又、当事業所にもAEDの設置している。	年2回夜間想定も含めて、避難訓練と消火訓練も行っている。地域とは、運営推進会議の席で協力体制が出来ており、訓練時の協力もある。相互協力の災害時には、地域の方の入浴や食事についての提供が話し合われている。事業所全体でランタンや電池、水、食料、ポータブルストーブ、灯油、毛布等を備え、予測する事で、浴槽に水を張るマニュアルも出来ている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	あさがおの理念であります「意志」と「人格」を尊重した関わりと、ご本人のプライバシーを損う様な言葉を使わないケアを徹底した、支援を行っている。	職員は、利用者の誇りや自尊心を損ねる事のない声かけや対応に心がけている。個人情報の管理、プライバシー保護について定め、書類の管理も整っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事にも職員が決めて、おしつけるのではなく、いくつかの選択肢を提案して、利用者が自分で決めて頂けるよう関わっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを大切に過ごしてもらい、それに向けて職員が支援を行っている。 又、買い物等一人ひとりの気持ちに配慮しながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えについては基本的に本人の意向で決めており、職員は見守りや介助が必要な時、手伝うようにしている。		

グループホーム あさがお

自己評価	外部評価	項目	自己評価(本館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の味見や調理出来る事は一緒に行っている。誤嚥に注意し、見守り、会話をしながら楽しい雰囲気の中で食べている。 又、準備や片付けも一緒に行っている。	メニューは施設長が確認し、各ユニットで毎日違った食事を手作りで提供している。他の事業所の職員が交代で検食する事で、お互いが刺激され、味付け・見た目・バランスが素晴らしく、利用者は大変満足している。一緒に準備したり、片付けを手伝う事で力を発揮したり、回転寿司や外出して軽食、外で焼き肉等楽しみの機会も作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康状態により、必要な人に対してはチェック表の記録を行っている。 又、定期的な嗜好調査により嗜好を把握し、栄養バランスにも配慮を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯みがきと入れ歯洗浄の声かけを行うと共に見守りの中で口腔ケアを行ってもらっている。 又、食事の時に歯の状態にも観察を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方には排泄表を作成し、排泄間隔をつかみ、誘導する事を行い、極力トイレでの排泄に心がけている。	トイレ排泄を基本に排泄パターンを把握し、タイミングを図る事で、声かけ誘導を頻回に行っている。利用前の状態が利用後に改善された方、急な入院で低下した状態回復についても、以前の状態に近づけるように取り組んでいる。夜間の排泄に検討が必要な時も、直に話し合っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を取り入れる等配慮し、十分な水分摂取の声かけと体操や歩行訓練、ゲームに参加して体を動かすことにより、腸のぜん動をよくするよう努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望を第一に考え、入浴を提供し楽しんで頂いている。	週2~3回入浴できるように支援している。体調や天候に配慮した対応も行われ、下のデイサービスの特浴の利用や年末の晦日浴の対応もしている。拒否傾向の利用者には時間を空けたり、他の職員の声かけに替える事で支援につなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の生活習慣に合わせて、安心した眠りや休息をして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬局より頂く効能表を読むことにより認識を深めている。服薬時はきちんと服用できているかの確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の能力や好みを把握し、クラブ活動やレクリエーション等で楽しんでもらっている。 又、お願いできそうな仕事を頼み感謝の言葉を伝えられている。		

グループホーム あさがお

自己評価	外部評価	項目	自己評価(本館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望を極力叶えるように努めている。ショッピングや友人宅への訪問、ご家族との食事会などの送迎も行っている。	毎日の散歩や日光浴には出来るだけ出掛け、地域の方と挨拶や交流をしている。事業計画には年間を通じて外出やイベントが盛り込まれ、富良野ラベンダー見学、白鳥飛来観察、リンゴ狩り、市内の祭り見学等数多く出かけている。駐車場での花火大会や、利用者の希望で買い物や毎週ドライブにも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	十分理解し、ショッピングや理美容でも自分の財布から支払って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の居室に電話の設置が出来るようになっていく。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や光等、季節の花鉢等を置き、居心地良い暮らしに努めている。	各ユニットは広さや作りも違い、それぞれの個性が感じられる。食堂とリビングが別々のユニット、大画面のテレビを背景にリビングを活用するユニットで、利用者は日常を寛いでいる。室温や湿度に配慮し、気になる匂いもなく、明るく過ごし易い空間となるように工夫している。掃除も行き届き、漏電の危険性からコンセントについては特に注意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや食堂等好みの場所を選択して過ごして頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたものを、ご家族と相談し持ち込まれていて、居心地の良い生活空間を作っている。	各居室は利用者にとって暮らしやすいように使い慣れた家具やベット、寝具が持ち込まれている。家族の写真や作品が飾られ、以前の生活と変わる事のないよう精神的負担を軽減できるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全事業所をバリアフリーとし、手すり及び介助バーを設置し、安全な生活が送れるよう配慮している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901043		
法人名	社会福祉法人 旭川健翔会		
事業所名	グループホームあさがお		
所在地	旭川市豊岡4条6丁目4番27号		
自己評価作成日	平成25年10月1日	評価結果市町村受理日	平成25年11月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「本館ユニット」に同じ

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0172901043-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年10月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(別館アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(別館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念を作成して職員間で共有し、その理念に基づき、事業計画を作成し実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設を地域に開放し、ご利用者も地域の一員としてラジオ体操や吹奏楽などに参加し交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、認知症についての理解が得られるよう、地域包括支援センターの保健師より認知症についての勉強会を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況の説明や、毎月の取り組みを報告しており、意見があった場合は、検討しサービス向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点や理解に困った時は、担当者に電話で聞いたり、出向いたりして、教えて頂き対応している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成し、全職員が施設内勉強会を行い、共有することで、玄関の施錠等行わず、見守りを重視している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員でマニュアルに沿って、勉強会を行って学んでいる。 又、入浴等に身体の観察を十分に行っている。		

グループホーム あさがお

自己評価	外部評価	項目	自己評価(別館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	包括支援センター等で開催する研修会に参加し、勉強した事等を施設内勉強会で全職員に伝え、認識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧な説明を行い、理解をしていただき、納得してもらっている。 又、ご家族のお話や状況を十分にお聞きし、不安を解消して頂けるよう関わっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者さんや、ご家族が意見や希望があれば、常にお聞き出来る姿勢を持っています。意見や希望があった時には運営に反映していきたい。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例ミーティングを行なっていて、勉強会を行ったり、職員の提案等を出してもらい、皆で検討し、良い事は実行している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務姿勢や実績を重視し、昇給や手当等に反映させている。 又、向上心を持って働いてもらえるよう、環境や条件に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の介護力を把握し、施設内の勉強会はもとより、外部の研修にも参加させており、各協議会の研修会の情報も提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の勉強会や認知症の研修に参加時に他の施設の方との交流をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(別館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接での生活状況を把握するよう努めると共に、個々に困っている事がないか、何かしてほしい事がないかを聞き、受け止めるよう努力すると共に、安心して過ごして頂けるよう配慮することに重視した関わりを持っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困っていることや、不安に思っている状況をよく聞き事業所として、どのような支援が必要かを話し合い、ご家族に安心して利用して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の思い、現在の状態を確認し、支援内容の提案等を何度もご相談しながら、必要なサービス内容につなげている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	嬉しい事、楽しい事を職員と利用者さんが、一緒に喜び、悲しい時も一緒に支え合いながら暮らすことにより、信頼関係を深めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者さんの日々の暮らしの中の出来事や気づきを報告し、一緒に喜び合っって本人と一緒に支えるために家族と同じ思いで関わっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用前の馴染みの深い方に遊びに来て頂けるよう配慮したり、出向いて行けるよう送迎し、関わりを継続できるよう配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立した生活にならないよう、一日の生活時間の中で、居間での共有の場と、居室での自分の時間を作り、その方に合った時間作りを行っている。 又、毎日のお茶の時間には、職員も一緒に入り、利用者同士の関係が円滑に出来るよう関わっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(別館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後の状況をお聞きしたり、何か相談等がありましたら連絡頂けるような関係を大切にしている。又、他の事業所に移られた方の所に、職員と一緒に遊びに行ったり来たりと交流を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望や意向をしっかり受け止め、本人らしい暮らしをご家族を交え検討し、個別に支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に現在迄の生活歴を本人とご家族よりお聞きする事と、毎日の会話の中から引き出すよう働きかけを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のミーティングや業務日誌の記録等で一日の過ごし方が把握出来ている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族からの希望又は、介護面での変化等をミーティング時に話し合い、お互いの意見等を出し合い、反映された計画を作成している。又、期間終了前に見直しすると共に、状態が変化した時には、終了する前であっても話し合い、見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護経過等の記録に日勤帯、夜勤帯等色分けし見やすい記入を行っている。勤務に入る前には、必ず確認を行ってから業務につくよう義務付けしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の希望とご家族の希望に応じると共に、常に状況の変化を柔軟に変更し、サービスの提供することに努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人が望まれる、近郊のデパートやスーパー等にお連れして楽しんで頂いている。又、利用者さんの意志によりお買い物され、楽しみや、満足感を持って頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望するかかりつけ医としている。又、受診や通院はご家族の希望に応じて支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(別館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日勤帯と夜勤帯での勤務の中で気づきや変化を、すぐ看護師に報告する事を徹底している。その後、看護師の指示を受け、適切な看護や受診等に結びつけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病状が安定した場合等、早く安心して暮らせるよう、施設で出来る状況を病院側に伝え、ご本人やご家族の希望があれば相談に努め、速やかな退院支援に結びつけている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体状況の変化を十分に把握し、本人の希望とご家族等の意向も伺い、主治医に伝え、主治医とご家族との確認をし、身体状況の変化のたびに繰り返し話をすることで、ご家族の気持ちの変化や本人の思いに目を向け支援につなげている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生マニュアルの勉強会及び応急手当の実技勉強会を行い、お互いに実技を行い合い訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回利用者と一緒に避難誘導訓練と消火訓練を行っている。地域の協力体制については、運営推進会議で協力をお願いし、地域での協力体制が出来ている。 又、地域の方にも参加して頂いている。 又、当事業所にもAEDの設置している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	あさがおの理念であります「意志」と「人格」を尊重した関わりと、ご本人のプライバシーを損う様な言葉を使わないケアを徹底した、支援を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事にも職員が決めて、おしつけるのではなく、いくつかの選択肢を提案して、利用者が自分で決めて頂けるよう関わっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを大切に過ごしてもらい、それに向けて職員が支援を行っている。 又、買い物等一人ひとりの気持ちに配慮しながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えについては基本的に本人の意向で決めており、職員は見守りや介助が必要な時、手伝うようにしている。		

グループホーム あさがお

自己評価	外部評価	項目	自己評価(別館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の味見や調理出来る事は一緒に行っている。誤嚥に注意し、見守り、会話をしながら楽しい雰囲気の中で食べている。 又、準備や片付けも一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康状態により、必要な人に対してはチェック表の記録を行っている。 又、定期的な嗜好調査により嗜好を把握し、栄養バランスにも配慮を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯みがきと入れ歯洗浄の声かけを行うと共に見守りの中で口腔ケアを行ってもらっている。 又、食事の時に歯の状態にも観察を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方には排泄表を作成し、排泄間隔をつかみ、誘導する事を行い、極力トイレでの排泄に心がけている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を取り入れる等配慮し、十分な水分摂取の声かけと体操や歩行訓練、ゲームに参加して体を動かすことにより、腸のぜん動をよくするよう努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望を第一に考え、入浴を提供し楽しんで頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の生活習慣に合わせて、安心した眠りや休息をして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬局より頂く効能表を読むことにより認識を深めている。服薬時はきちんと服用できているかの確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の能力や好みを把握し、クラブ活動やレクリエーション等で楽しんでもらっている。 又、お願いできそうな仕事を頼み感謝の言葉を伝えている。		

グループホーム あさがお

自己評価	外部評価	項目	自己評価(別館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望を極力叶えるように努めている。ショッピングや友人宅への訪問、ご家族との食事会などの送迎も行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	十分理解し、ショッピングや理美容でも自分の財布から支払って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の居室に電話の設置が出来るようになっていく。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や光等、季節の花鉢等を置き、居心地良い暮らしに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや食堂等好みの場所を選択して過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使いなれたものを、ご家族と相談し持ち込まれていて、居心地の良い生活空間を作っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全事業所をバリアフリーとし、手すり及び介助バーを設置し、安全な生活が送れるよう配慮している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム あさがお

作成日：平成 25年 10月 29日

市町村受理日：平成 25年 11月 13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1・4	運営推進会議に出席していない利用者家族に会議の報告がなされていない。	次回の会議より、欠席者及び出席されていない利用者家族全員に会議録の写しを送付する。	次回の12月開催の会議から送付する。	12月から実施
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。